

荻田町青少年育成町民会議だより



すたが

No.6. 1991年（平成3年）11月25日

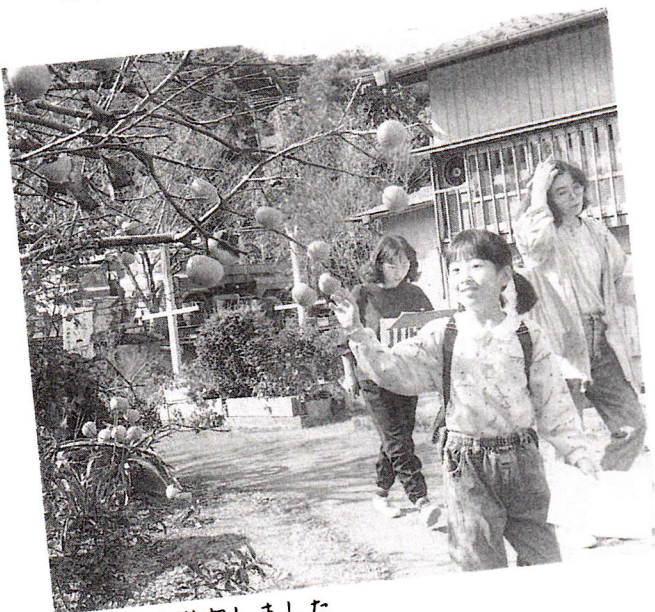
歩いて、秋を感じて



▲家族のふれあいを楽しみながら



▲さあ、スタートだ！



▲「秋」を満喫しました



▲課題に挑戦（清経塚にて）

第2回ふれあいウォークラリー

11月10日、健全育成部会主催の第2回ふれあいウォークラリーが開かれました。役場前スタート・ゴールの4コースに52チーム、198人が参加、地図を頼りに歩きながら、町を再発見しました。

12月15日(日) 親子凧作り教室

手づくり凧を
作ってみませんか?

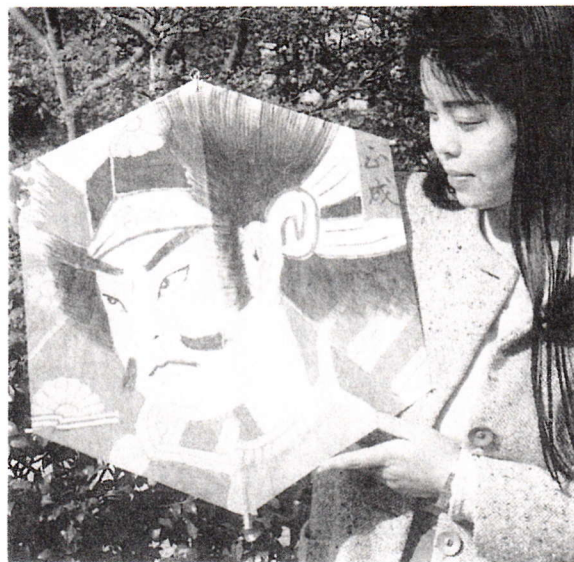
参加者募集

- 日時 12月15日(日)午前9時～
- 場所 苅田小学校講堂

昨年引き続き、今年も凧のサークル「北九州鳥凧愛好会」のみなさんが、素敵な凧の作り方を伝授してくれます。作り方は簡単です。作った凧は来春の凧揚げカーニバルでさっそうと揚げてみましょう。

- 募集人員 百名(定員になり次第、締め切ります)
- 材料費 無料
- 持ってくるもの カッター、ハサミ、定規(30cm程度)、鉛筆
- 申込先 役場社会教育課(☎434-1111内線341)へ電話でお願いします。(人数、年齢、住所、電話番号など)

※小学3年生以下はできるだけ親子で参加をお願いします。



花田加代さん(苅田中)が発表

少年の主張福岡県大会

十月六日、久留米市の石橋文化センター共同ホールにおいて、平成三年少年の主張福岡県大会が行われました。県内の各中学校から百三名の応募があり、選考により十五名が発表しました。

苅田町からは苅田中学三年の花田加代さんが選ばれ、「心の変化」という題で発表しました。



寒い冬を吹き飛ばす凧揚げカーニバルを行います。カラフルでユニークな凧を苅田の空に舞上げましょう。くわしくは、のちほど町政だよりでお知らせします。

来春1月26日(日)
開催決定!
第2回 凧揚げ
カーニバル
ところ 向山公園



毎月第三日曜日は
「家庭の日」です。

一親と子の心がふれ合う
1日を過ごしましょうー



シリーズ 人②

子どもたちとともに二十年

荻田町青少年育成会連合会長

松 中 文 雄さん（馬場）

子どもたちにまかせることが大切です

——松中さんは、昭和四十六年に馬場地区育成会長になられたのが、二十年来にわたる育成会指導者としてのスタートですが、最初のきっかけは？

松中 大したことありません（笑い）。他にやり手もなく、まあ、子どもがお世話になったから、恩返しでもしようかという程度でしたね。

——それが、二十年も続いたわけですが、その原動力となったのは何でしょうか？

松中 おおげさに言えば、日本の将来を憂う気持ちでしょうか。日本が経済成長を続けて、豊かな国になりましたが、豊かさの中で子どもに対して過保護になり、子どもたちの自主性や意見、主張がなくなってきたように思います。

日本は世界の先進国となって、も

うモデルはないのですから、自分の頭で考える人間を育てていかないと、日本は大変なことになるぞと思っています。

——育成会活動を指導する際に心に留めていることは何でしょうか？

松中 子どもたちに「まかせろ」とです。スポーツ大会にしても、審判や監督・コーチも子どもたちにやらせます。まかせてしまうことに心配する方もいますが、これまでトラブルはありませんでした。

それに、選手として勝敗を争うだけでなく、審判や監督を通じて、社会的体験ができます。指導者の頭の切り替えが必要でしょうね。

——では、今後の課題は何だと思えますか？

松中 学校の週休二日制導入が必至の状況ですが、そうなると、育成会だけでは対応できないと思います。子どもたちが健全にのびのびと週末を過ごせる環境を地域全体で作っていかねばならないと思います。そのためにも、幅広いボランティアの指導者を育成する必要がありますね。

——最後に、育成会活動を離れての趣味は何ですか？

松中 今のところ、育成会活動自体が趣味ですね。そろそろ、自分自身の趣味を持ちたいとは思っているんですけれどね。（笑い）

悩んでいないで 気軽にダイヤル

イ イ コ ニ
☎436-1152

青少年教育相談室

教育委員会では、青少年の健全な育成をと「青少年教育相談室」を開設しています。ご利用ください。

勉強や進路、友達、家庭や親子関係、子どもの変化、しつけなどの問題解決への手助けのために、まずは、気軽にダイヤルしてください。秘密は固く守ります。

電話相談 毎週水・木曜日

午前9時～午後4時
面接相談 毎月第2・第4金曜日

午前9時～午後4時
三原文化会館

※祝祭日は除きます。

青少年教育相談Q&A

今回も登校拒否について述べてみたいと思います。

Q. 学校に行きたくない、親は学校へ行かせたい、両者お互いそのことでもんもんとしています。何かアドバイスはありませんか。

A. 登校拒否には色々なタイプに分けられていますが、大きく分けて二つのタイプに分けるとわかりやすいと思います。一つは急性型、神経症的傾向が強い『優等生息切れ型』と呼ばれるもの。

もう一つは、慢性型で幼稚園や小学校時代から尾を引く依存・甘えの傾向が強いもの。親に柔順で挫折経験の少ないいわゆる「いい子ども」が目につきます。

母親はどちらかという過干渉のタイプが多いようです。

中学校（高校）は、小学校（中学校）に比べて広い地域から集まりますから、それまで成績のよかった子どもも努力はしているものの思い通りに成績が伸びなくて、初めて挫折感を感じます。

性格的にも弱く、一層、安全な家庭に閉じこもることになるわけです。反対に学校に行かないのは、悪いことだと自責の念に落ち入ることが多く、気持ちの負担を軽くしてやるのが治療、立ち直りの第一歩になります。

また、慢性型の場合は共通してみられることは、年齢に応じた自立心が育ってないことが多く、親も子も子離れが出来ず子どもを甘やかし、過保護に溺愛して育てている場合が多いのも特徴といえるでしょう。子どもは、いつまでも『親の傘』から出られない。こんなときに親はこれではいけないと急に厳しい態度に出ると、驚きと不満が一挙に爆発して、家庭内暴力を起こしかねません。

慢性型の治療法としては、年齢や症状にもよりますが、わがままを受け入れてくれる環境から徐々に切り離すことも効果的だと思います。要は自立心を育てることにあると思います。

「遊んだら文化」

講師 ● 小田切直人さん（遊び塾ありギリス事務局長）

とき ● 11月28日（木）午後6時30分開演

ところ ● 三原文化会館大ホール

町民会議総務部会主催講演会

空家巡回活動を行います

補導環境部会

先に駐在員さんを通じて調査しました各地区の空家について、補導環境部会ではこれから、定期的に空家巡回活動を行いますので、みなさんのご協力をお願いします。



★編集後記

十一月は「全国青少年健全育成強調月間」です。

町民会議では、この強調月間に限らず、広く町民のみなさんと一緒に、青少年の健全育成を考えています。町民会議が発足して二年半になり、その間いろいろな活動を通じて、いままでも以上に家庭や地域に密着した活動の必要性を感じています。

この十一月の強調月間を一つのステップとして、これからの町民会議の活動を家庭や地域ぐるみで行っていきたいと考えています。

みなさんの声をぜひお寄せください。

編集・発行

荏田町青少年育成町民会議

総務部会

☎ 434-1111 内線341